

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



ケニアのシーブケア学校では、毎朝子どもたちの栄養を補う飲み物を提供

最後の晩餐から希望の朝食へ

日本国際飢餓対策機構 理事長 岩橋竜介

数年前に某テレビ番組で、「あなたが死を前にして、最後に食べたいものは何ですか」という趣旨で「最後の晩餐」を著名人に尋ねていたことがありました。それと関連して、2011年1月29日の朝日新聞朝刊の「beランキング」で、無料会員サービスのアスパラクラブが行った上記質問のアンケート結果が掲載されていました。さて結果は、10位から1位までは、味噌汁、おにぎり、ウナギ、すき焼き、ステーキ、ケーキ、カレーライス、刺身、ごはん、そして第1位は、握り寿司でした。どれも、なるほどと思うようなものですね。

食べ物そのものだけではなく、それにいろんな思い出が詰まっていることもあるでしょう。母のおにぎり、妻のカレーライス、家族で食べたすき焼きなど…。ある方は、「どんなものでも、最後には母の作ってくれたごはんと味噌汁と卵焼きに行きつくんだよなあ」とも言われます。そうです。食べることに幸せをおぼえ、食べるものがあることに感謝をするのです。

しかし、これは豊かな日本のお話です。同じこの時代、同じ地球に生きている人々が同じような応えができるかという決めて、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送る作業のご協力をして下さっています。

いか」という質問に、「食べることができるのか?」と逆に問うことしかできない人々が多くいるのです。それどころか、この食べ物尽きたら、次にいつ食べられるのか分からない。もし食料が尽きるなら、この米が、このトウモロコシの粉が、この麦が、この草が、「最後の晩餐」になるのかもしれない…。飢えて死にゆく子の前で、父が何も口に入れてやれない。母が涙を流しながら、昔作った食事の話しかしてやれない。架空の話ではない、現実起っていることなのです。

しかし、もし私たちが心を開いて愛と分かち合いの行動を起こし、勇気をもって行動を始めるなら、あの子どもに、あの家族に、悲しみと絶望の「最後の晩餐」ではない、喜びと希望の朝食を分かち合うことができるのです。

JIFHはその希望を届けてきました。皆さまからお預かりした、愛のこもったご支援を確かに届けてきました。そして、これからも届けていきます。いや、届けさせていたきたいのです。よろしくお願い致します。

「飢えた者に心を配り、悩む者の願いを満足させるなら、あなたの光は、やみの中に輝き上り、あなたの暗やみは、真昼のようになる。」聖書 イザヤ書58章10節

母の日のプレゼントにどうぞ

協力企業キングダムビジネスから
「シルク100%のストール」

優しい肌触りのストールはいかがですか。エチオピア・サバハール製:フェアトレード ストール。素材は、シルク100%、草木染め。サイズ約25×約160cm。価格は税込3,000円。送料無料(日本国内のみ)カラーは下の色番号で指定ください。



先様へ直接お届けをご希望の際は、お申し込みの時に請求書の送付先をお知らせください。尚、お申込先着20名様にハンドメイドのストラップを進呈いたします。(内容はお任せ)【お求め、問合せ先】(株)キングダムビジネス TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888 Web:キングダムビジネスで検索。母の日プレゼントから。(売上の一部はJIFHに募金されます)

沖縄事務所移転のお知らせ

4月7日から下記の新住所に移転しました。

〒900-0033 沖縄県那覇市久米2丁目25-8
メゾン久米 202号室

※電話とファクシミリ番号も変わりました。
電話(098)943-9215 FAX(098)943-9216

送金時の払込み料金一部改訂

消費税率アップで、郵便払込み料金が、窓口、ATMから現金で送金する場合に10円値上がりするケースがあります。ご注意下さい。

2014夏 海外ワークキャンプの参加者を募集中です

●フィリピン ワークキャンプ

日程: 7月31日(休)~8月9日(出) 費用(改訂): 16万8千円 定員: 12名
内容: マニラの貧困地域で子どもの支援をしているフィリピン NGOを訪ねて貧困問題を学ぶ。又ミンドロ島、サンアンドレス小学校で建設作業のお手伝い。

●ウガンダ ワークキャンプ

日程: 8月18日(月)~30日(土) 費用: 33万8千円 定員: 10名
内容: 国際飢餓対策機構ウガンダがナムトゥンバで実施している活動について学び、現地の人々と共に、学校建設のお手伝いをします。



※定員になり次第締め切ります。申込みは東京事務所・福地まで。参加にあたり当機構の会員登録が必要となります。また未成年者は保護者の同意書が必要です。

ハンガーゼロサポーターを大募集中!!

現在...

3475口

今すぐ各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ フィリピン台風支援に協力します。緊急募金として _____ 円協力します。
- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。毎月 () 口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。毎月 () 口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。毎月 () 口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

..... (電話) _____

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼NL 号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロで検索!

Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ募金ができます!



JCBカードも使えるようになりました!



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするため、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送る作業のご協力をして下さっています。

レイテ島・サマル島・セブ島

今も深刻な食糧事情

昨年11月の台風被災者のために岩手医科大学から寄贈されたサンマ・ソーセージ・野菜スープ等の缶詰や、パン秋元からの寄贈と合わせて1万食を超えるパンの缶詰を、現地パートナー団体（国際飢餓対策機構フィリピン、ナビゲーターフィリピン、フィリピン福音自由教会本部）と協力して、レイテ島・サマル島・セブ島で配布しました。

稲本・申が、2月26日から3月14日までレイテ島タクロバン市とサマル島バセイ市を中心に配りました。稲本の報告です。

バン市の多くの被災者は未だに苦しい生活を強いられています。特に食糧事情の悪さは深刻です。私たちはタクロバン福音アライアンス教会周辺地域の200家族に食料をお配りしました。またサマル島バセイ市のバセイ第一・第二小学校で、それぞれ920個、610個のパンの缶詰を配布しました。

誤った情報で支援が減少

タクロバン福音アライアンス教会のリック牧師は、「タクロバン市とその周辺地域では復興が十分に進んでいる、という誤ったニュースがフィリピン国内で報道され、その影響で世界的に人々の関心が希薄になって支援が一気に減少しました。この教会周辺でも海外の団体がその誤った情報を信じ、支援が中止されてしまいました。その結果、台風で職や財産を失った多くの被災者が、食料を求めて毎日のように私の教会を訪れます」と心を痛めながら話してくださいました。



サマル島のバセイ小学校でパンの缶詰を配る稲本

私たちが支援物資をお渡しすると、リック牧師は「この感謝の気持ちを忘れず、いつか日本の皆さんに恩返しをしたい」と言われました。物資をお渡しした先々では、皆さん満面の笑顔で、あるいは涙を浮かべながら「ありがとう！」と喜んで受け取って下さいました。

当機構は、現地のパートナー団体と今後も継続的に協力し、被災者の必要に応じていきます。そして人々が復興の土台をしっかりと築き、自らの手によって今までの街並みや生活を取り戻すことが出来るよう支えていきます。



レイテ島タクロバンで現地パートナーのナビゲーターと食料キットを配布

●支援の際は、「フィリピン台風」と明記ください。ウェブサイトからもクレジットカードでいますぐ募金ができます。

なぜ？ 飢餓になるの

シリーズ③ 「気候と天候」

今も世界の8人に1人、アフリカでは3人に1人が栄養不良に陥っています。このようなことが起こる原因には、「貧困の連鎖」と「農業投資の少なさ」があることをお伝えしてきましたが、「気候と天候」が大きな影響を与えていることは言うまでもありません。

2011年にはエチオピア、ソマリア、ケニアの各地で頻発した干ばつによって人々は飢餓状態になり、さらに多くの家畜を失うという深刻な問題が起こりました。2012年にも西アフリカのサハラ砂漠南縁で同じ問題が発生し、日本国際飢餓対策機構は、ソマリア、ケニア、ニ

ジェール、マリにおいて緊急の食糧支援を行いました。

次の収穫まで待つ猶予もなく

気候変動や異常気象の影響を最も大きく受けるのは、貧困に苦しむ人々です。洪水や干ばつによる穀物の収穫不足は、次の収穫まで食料を蓄える余裕のない人々がたちまち飢餓に陥ってしまう原因となります。食べる物が底をつき、次に蒔くために取っておいた種に手を出さなければ生きていけなくなります。また、食物の確保のために争いが起こって治安が悪化し、外国からの支援も届きにくなって、飢餓はさらに深刻になっていきます。

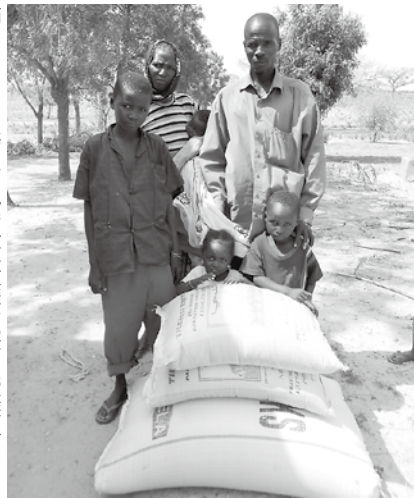
温暖化による収穫減も

また、世界で肥沃といわれる耕作地でも、洪水による侵食や塩水化、また砂漠化が広まってきています。さらに森林の破壊が、作物を育てる土地の破壊を加速しています。国連の「気候変動に関する政府間パネル」第2作業部会は、温暖

化によって気温が2度上昇すると、米、小麦、とうもろこしの収量は温帯や熱帯で減少すると指摘しています。私たちは、自らの生活を見直して温室効果ガスの排出を減らす努力を真剣にすることが求められています。

今後世界の人口が増えて食料の需給がひっ迫する中で、穀物の生産量が減少すると、投機も相まって穀物価格の高騰に拍車をかけ、飢餓・貧困に苦しむ人々をさらに苦しめることとなります。そして満足に食料を得られないという状況は、国際的な不安定化につながってきます。

世界にはさまざまな要因で厳しい食料不足が毎日のように続いているにもかかわらず、報道されることなく支援の届いていない地域もあります。そのような地域の人々や子どもたちのためにも、JIFHは現地の支援団体と協力して給食や教育支援などをサポーターの皆さんと共に続けて行ってきたいと願っています。皆様のご協力をお願いいたします。



●アフリカの飢餓問題を解決するための「ハンガーゼロ・サポーター」を募集しています。毎月1,000円（1口）



緊急
レポート

中央アフリカ共和国 難民支援

中央アフリカ共和国で2013年3月に政変が起きて、国民の2割が住む所を追われ、9割の家庭が1日1食しか口にできないという深刻な飢餓が広がっています。当機構のパートナー団体「Hands of Love Congo」は、コンゴ共和国との国境沿いに逃れてきた148家族のために、国連と共に食料などの緊急支援を行いました。団体の代表であり当機構のアフリカ駐在員のジェローム・カセバからの報告です。



支援物資を受け取り喜ぶ男性



難民の多くは女性と子どもたち



肉体的精神的に苦しめられる難民

中央アフリカ共和国ではもともと3割の家庭が食料不足に苦しんでいましたが、イスラム教系勢力とキリスト教系勢力との間の武力衝突の激化によって殺害、報復、略奪を恐れた人々約10万人が首都バンギの国際空港に逃れ、空港は難民キャンプのような状態になりました。

一方隣国のコンゴ民主共和国北部にも人々が続々と避難しており、その数は6万人、ウバンギ川を渡って歩いて国境を越えてくる難民の数は今も増え続けています。

ボンバカボ難民キャンプ

私たちがコンゴ民主共和国の首都キンシャサから977kmのゲメナに到着すると、中央アフリカから逃れて来たばかりで、支援を全く受けていない難民の人たちがいることを知らされました。そこでさっそくゲメナから30km離れたボンバカボという難民キャンプに行きました。ボンバカボは人口数百人の小さな村ですが、



この地域に流入してくる中央アフリカ難民の数が増えたため、新しくできたキャンプです。そのために未だ設備が整っておらず、人々は外で寝ていました。

私たちは、米、豆、砂糖、塩、料理用油、石鹸、中古子供服、プラスチックのカップや皿、スプーンなどを配布しました。

そこにいるのはほとんどが女性と子ども達で、食料不足のために大変痩せていました。難民の1人に話を聞いてみると、男性達は、コミュニティを守るため、中央アフリカに留まって戦いを続けており、これまでに紛争で亡くなった人も大勢いるということです。バンギで行われた残虐行為によるトラウマを抱えているようで、肉体的にも精神的にも非常に弱っていました。話しているうちに、辛い思い出や故郷で失くしたものが蘇ってきて、その人は話の途中で何度もわっと泣き出していました。

乳幼児に治療ができない

難民の方々が診療を受けている村の小さなクリニックを訪ねるとそこには、マラリアや呼吸器を患う子どもがたくさんいました。そして、不衛生な環境が引き起こす病気も目立ち



食料や生活用品を受け取った中央アフリカ難民

ました。幼い赤ん坊を抱えた女性もたくさんいましたが、乳幼児に必要な治療を十分に与えられる状況ではありませんでした。生後わずか2カ月の赤ん坊が母親と共に外で寝ているような状態です。食べるものが十分にならないため、母親たちは母乳を十分に与えることができません。

このように新たに中央アフリカから逃れて来た人達の状況は悲惨で、ほとんどの人が食べ物も寝る場所も確保できていない状況でした。国境沿いの多くのコミュニティが、すでにおびた数人の難民を受け入れてホストファミリーとなって自分たちの家に泊まらせ、食料などを分け与えていますが、増え続ける難民すべての面倒を見ることは到底でき

ません。

ホストファミリーの助け

中央アフリカから逃れホストファミリーと暮らしている30歳のエイ

マーさんに話を聞きました。「ここでは食べ物を手に入れるのが難しいけれど、ホストファミリーが私たち親子4人を温かく迎えてくれてとても助かっています。この家族は、1996年にコンゴで衝突があった時にバンギの私の家に逃げてきたことがあります。ここでは私は畑で働かせてもらっているので、何とか食料を買うことができます。でも、子どもを医者に診てもらおうお金まではないので。」

難民の方々は本当に困難な状況の中にあります。援助団体の多くが難民の方々のところまでたどり着けないのです。治安がとても悪い上、道路が整備されていないので、オートバイで行くしかありませんが、大へんな危険を伴います。その上国境付近の地域で中央アフリカからの難民が増え、米やキャッサバ、油、魚、肉、野菜、砂糖、塩、などの食料や石

鹸、燃料などの生活必需品の必要が増えるに従って物資が不足し、価格の高騰が起きています。家賃の値上がりや生活費の高騰に地域住民も危機感を覚えている状態です。

ぜひサポーターとなって！

この紛争によって多くの難民が家族を亡くしています。またユニセフによるとこの紛争で6,000人の子どもたちが武装勢力に関与させられているということです。このように祖国を離れて難民となった人々にこれからも食料などの支援を続けるために、ハンガーゼロ・サポーターの皆さんの継続したご支援をお願いいたします。また同時に新たにハンガーゼロ（一口1,000円／月）に加わってくださる方が必要です。是非ご協力ください。

難民エイマーさんの壮絶な体験

夫は殺され、逃げる途中に林の中で男児出産

中央アフリカから逃れてきたエイマーさんは30歳、4人の子どもの母親です。紛争が起こった時は夫と一緒に暮らしていて、妊娠中でした。危険を感じた一家は、バンギにあるカトリック教会に逃げ込みました。状況が少し収まったので元の村に戻っていたところ、武装グループが彼女の家に押入り、夫は連れ去られて殺害されました。エイマーさんは3人の子どもを連れてコンゴに逃げる途中、夫の家族に助けられてウバンギ川を越えた林の中で男の子を出産しました。今本当に困難な状況にある中、お渡しした支援物資をととても喜んでくださいました。





元里親さんの奈良崎ファミリー

これからのルイくんの活躍を祈っています

飢餓対策ニュース2月号に「10年後のめぐみ」として、モザンビークの元里子、ルイ・セルソ君からの感謝の手紙を掲載いたしました。ルイ君は支援を受けて学校を卒業し、教師として働いた後、奨学金を得て現在ペイラの教育大学で学んでいます。この記事を読んで、ルイ君を支援して下さった元里親の奈良崎ファミリーがルイ君宛てに手紙を書いてくださいました。許可を得て掲載させていただきます。

大人になったルイくん(?)へ

飢餓対策ニュースにルイくんからのお手紙が載っていることを知らされてビックリしました。そして、本当に励まされました。私たちのわずかな支援を用いて、神様がすばらしいことをして下さいましたことを知らされて…。私たちは天国に行く前に、特別にもう神様からごほうびをもらってしまった感じです。ルイくんのご家族とやがての生徒さんたちにも神様の祝福がありますようにと祈ります。(奈良崎 満・直子)

こんにちは、長女の鳩子です

「小学生のルイくん」だったのが、立派になられて学びを続け、家庭を持っていることも知って神様に感謝しました。私にも3歳の娘と7ヵ月の息子がいます。ルイくんの学びが祝福されて、これからの世代の子どもたちの教育のために大いに用いられるようにお祈りしています。

お久しぶり!次女の羊子です

ルイくんからのお手紙を読んでとても嬉しかったです。私にとってムササという地名はとても懐かしい響きです。ルイくんがたくさん勉強を続けてこられたこと、今も学びをされていることを嬉しく思います。ぜひ教育に貢献する人になってください。私は2010年にIT関係の会社に就職し、今もそこで働いています。2013年に結婚しました。

私の両親は日本では裕福ではなく、私は進学にあたって奨学金とアルバイトで学費と生活費を工面しました。そのような私たちの家



本紙2月号(2013年)の記事、ウェブサイトに掲載されます。

庭が、少しでもルイくんのお役に立てたことが嬉しいです。ルイくんの家庭を神様が豊かに祝福してくださいますようにお祈りします。



世界里親会が支援している子どもたちは、飢餓・貧困と闘う人々が自らの力で困難な状況から抜け出すための大切な原動力となります。そのためには継続して学校教育を受けることが必要です。一人で、ご家族で共にあるいは友人とグループで、チャイルド・サポーターとなって子どもが学校に行けるようにご支援をお願いいたします。

愛知県半田市 (株) 中京医薬品さんの国際貢献活動

ウガンダの病院で入院中の人々に食事の支援

東アフリカ・ウガンダの首都カンパラには、病気のために治療を必要とする人々が全国から集まっています。その中には、貧しくて入院中の食事を確保できない人々が大勢います。特にガンやHIVに罹った人は付き添う家族もなく、孤独と食料の不足に耐えながら治療を受けなければなりません。

JIFHのパートナー “アガペ・ホ

スピタル・ミニストリー” は、2007年の設立以来このような人々に食料の提供や、慰問活動を通してこの厳しい状況の中にある人々を励まし、治療後は社会復帰するまで支援してきました。愛知県半田市の株式会社中京医薬品さんの国際貢献活動「きずなASSIST」はこの活動に協力し、カンパラの4つの病院のがんセンターに入院中の700人の食料として、穀物、魚、野菜、パン、砂糖などを提供して下さいました。これらの食料は現地で調達され、“アガペ・ホスピタル・ミニストリー”のスタッフによってムラゴ病院に搬送され、キセイニ、ビリカ、カバオの病院にも配布されます。



企業の社会貢献活動として貧困・飢餓と闘う人々の支援協力に関心をお持ちの方は、大阪事務所までお申し出ください。

2014.5
No.286
7

● ハンガーゼロ・ファシリテーター・トレーニングに参加して ●

本当に続く効果的な援助を考える

3年前、職場の研修会でファシリテーションという言葉聞き、機会があれば学びてみたいと思っていたところ、世界の事もファシリテーションの事も学べるクラスの案内をJIFHの飢餓対策ニュースに発見し、参加することにしました。

1週間の学びでしたが、どのセッションも盛りだくさんで中身の濃いものでした。「飢餓の原因は自分も含めて世界中の人々の無関心という罪にあること」「本当に続く効果的な援助は、相手をよく知り、寄り添うことで分かる

こと」「互いに知り合うためにファシリテーションの技術が必要であること」「まずは私から」という意識が、世界が変わることへの第一歩である」など、学びました。

これから世界へ奉仕に出る人の為の学びでしたが、大学職員である私にも、学生と対応するときや、行き詰まったと思われるような時に応用できる内容でした。「学んだことはいつでも発表します」と職場で報告したら、新年度の大学チャペルで話してみても?との提案でした。「はい、やってみます」と返答できたところに、「まずは私から」の学びの効果がさっそく現われたかな、と思いました。

(受講者・鵜澤未央さん)

